

アトク先生の館の 庭園



庶民所有の庭園としては庄内有数のもので、各種の樹木が植栽されています。初期の庭は元禄期に一千両の巨費を投じて各地から木や石を集めて造られたと伝えられています。

夏には睡蓮が咲き誇り、庭園東側にそびえたつ樹齢350年あまりのコウヤマキは町の文化財として指定を受けています。また、建物南側には樹齢400年のクロマツの大きな木があります。



こだわりの逸材で、贅を尽くした日本建築



江戸時代の阿部家は庄内有数の地主として100町歩以上の農地を所有し、190戸の小作を抱える資産家でした。

現建造物は、大正の終わり頃から昭和の初めにかけて建造されたもので、皇室関係の建物を多く手掛けた宮島佐一郎氏の設計によるものです。

東側、北側の廊下にはそれぞれ10m、7mの檜の一枚板が使用され、現在では入手困難と言われる逸材が随所に用いられています。

アトク先生の館の 山野草園



アトク先生の館の山野草園では、季節を彩る植物をご覧ください。

毎年、5月上旬の開花時期に合わせて「春の野草を観る会」を開催しています。

アトク先生の館の おひなさま



阿部家の内裏様

庄内の土人形

アトク先生の館には一般的な節句雛のほか、歴史上の人物伝承をもとにした人形が多く残されており、毎年3月の雛人形展示は、他にはない珍しいものとなっています。

これらの人形は阿部家の夫人であった関(世記)氏により明治後半から昭和前半に制作されたものです。